

JAPAN  
JAPAN



# JAPAN & KOREA FRIENDSHIP CONCERT

日韓フレンドシップコンサート プログラム  
2000年9月3日(日)午後1:30開場／午後2時開演

主催：日韓フレンドシップコンサート実行委員会／上越市

後援：JOIN上越国際交流協会

協賛：直江津ロータリークラブ／在日本大韓国民団新潟県上越支部

会場：上越文化会館 大ホール

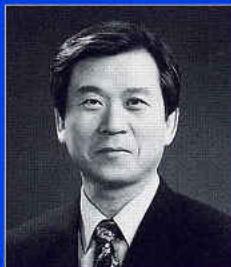
出演：浦項市立交響楽団(韓国)、上越交響楽団

KOREA  
KOREA





市長あいさつ



■浦項市長／鄭章植(チョン・チャンシク)

このたび上越交響楽団と浦項市立交響楽団とのジョイントコンサートを開催できることは、52万人の浦項市民にとりまして、大変喜ばしいことであります。

浦項市と上越市が「国際経済・文化交流共同宣言」を行ってから5年が経ちました。この間、両市は幅広い交流をしてきておりますが、この浦項市立交響楽団と上越交響楽団の共演は文化芸術分野交流の第一歩として、大変意義があると思います。

21世紀は、文化の世紀といわれております。音楽は、国境と人種を超越する世界共通の言語です。上越市と浦項市がこのコンサートを契機に、音楽を通じて相互理解を深め、互いに友情を確かめて、良きパートナーとしてともに発展し、21世紀環日本海(東海)経済圏の中心を歩んでいくことを期待します。

今後も様々な文化芸術行事の交流を通じ、両市の友好増進と文化の情報交換に大きな発展を期待し、このコンサートに積極的にご支援くださった宮越馨市長、また、ご尽力いただいた関係者の皆様に厚く御礼を申し上げます。

このコンサートのご成功と上越市の限りないご繁栄をお祈り申し上げます。



■上越市長／宮越馨

このたび浦項市の代表団及び交響楽団の皆さんをお迎えし、上越交響楽団との合同コンサートを盛大に開催できることは誠に喜ばしいことであり、市民とともに心から歓迎いたします。

21世紀を目前に控えた今日、様々な分野において国境を越えた地域間の交流や協力が一層進展しているところであります。2002年には、サッカーワールドカップが韓国と日本で共同開催されます。

浦項市と上越市は、1996年に「国際経済・文化交流共同宣言」を行って以来、着実に交流を深めてまいりました。そして今日、交流の成果が実り、合同のコンサートを開催するという相互協力の段階に至ったことは極めて意義深いことであります。今後、このような取り組みが着実に進展し、様々な分野で両市民が主体となった交流・協力関係に広がり、環境問題や非核・平和問題など人類共通の課題にまで相互協力が実現できれば、素晴らしい事であると考えます。

浦項市立交響楽団は、若さあふれる優れた交響楽団であることがわかっており、素晴らしいコンサートになることを期待しています。浦項市立交響楽団の派遣にご理解をいただいた鄭章植市長をはじめ、開催に尽力された関係者に心から感謝いたします。

# PROGRAM

◎プログラム

## 上越交響楽団

- ・外山雄三作曲「管弦楽のためのラプソディ」
- ・シャブリエ作曲「狂詩曲スペイン」
- ・ファリャ作曲組曲「三角帽子」より

### ■外山雄三／「管弦楽のためのラプソディ」

1960年作曲。拍子木・仏教の儀式で使われる鐘・ウチワ太鼓・締太鼓・チャンチキ・小型の鈴・長太鼓といった打楽器群が明快にリズムを刻む中、「あんたがたどこさ」「ソーラン節」「炭坑節」そして「串本節」が並ぶ。静かなフルートに導かれる「信濃追分」に続いて、再び快活なリズムを刻む打楽器群にのって「八木節」が高らかに鳴り、拍子木を伴って全体を力強くしめくくる。

1960年、NHK交響楽団の欧米演奏旅行の際に演奏され、「外山雄三」の名を世に広めた。日本のオーケストラ作品の中で、海外で最も人気を集めている曲のひとつである。

### ■シャブリエ／「狂詩曲スペイン」

シャブリエは音楽家としての活動を本格化させる前は、法律を学び内務省の役人だったという変わった経歴の持ち主。しかも画家たちとも深い交際があり、マネ、モネ、ルノアールなどの作品をはじめ多くの絵画のコレクションを所有していた。しかし幼い頃からピアノを学び三十代半ばから本格的に作品を発表しはじめた。またそのころワーグナーの「トリスタンとイゾルデ」を聴いて決定的な影響を受け音楽家として生きることを決意、三十九歳の時に官吏生活から足を洗った。その彼の代表作である「スペイン」はその少し後に作られたものである。スペイン旅行の印象が元になっており、その沸き立つような華やかさと洗練された雰囲気とは、まさにフランスの音楽家ならではのものである。

曲は軽快な弦のピチカートで始まり、まもなくリズムミカルな主題が現れ、これがフルオーケストラで爆発する。続いていくつかの旋律が次々に楽器や強弱を変えてきらめきつつ流れていく。中間部ではトロンボーンが朗々と活躍するが、いずれも楽器の組み合わせに多彩な変化がみられる。コーダではトロンボーン主題と冒頭主題とで追い込みにかかり、華麗に盛り上げていき、鮮やかにエンディングを決める。

### ■ファリャ／組曲「三角帽子」より

ファリャは、スペインの民謡や土俗的な舞曲を素材とした魅惑的な音楽を作曲したという点で、近代スペイン音楽の門戸を開いた功労者である。

「三角帽子」は稀代の興行師といわれたロシア・バレエ団の主宰者セルゲイ・ディアギレフの依頼で作曲されたバレエ音楽で、ファリャの名声を確認たるものにした傑作である。「全編スペイン風」というディアギレフの希望どおり、強烈なスペイン色に彩られた作品に仕上がっている。

物語は南スペイン・アンダルシア地方のとある村。聖ヨハネ祭の夜。近所の人たちが粉屋の家に集まって踊りに興じている。アンダルシア地方の民族舞踊セギディアによる「近所の人たちの踊り」である。粉屋はすっかり上機嫌になり、そのうち得意のファールカ(叩きつけるようなリズムが印象的な民族舞踊)を踊り出す。「粉屋の踊り」である。この粉屋の美しい女房を、権力をかさに着た好色の悪代官がなんとか自分のものにしようとする。しかし、粉屋の計略と日頃から威張っている悪代官をこころよく思っていない村人たちによって、結局、散々な目に合わされ、ほうほうの態で逃げていく。北部スペインの急速な3拍子の民族舞踊ホタによる「終幕の踊り」である。なお、「三角帽子」とは代官のかぶる帽子であり、権力を象徴的に表わしている。



## 浦項市立交響楽団



- ・李 相根作曲「韓国旋律による徐緩調」
- ・メンデルスゾーン作曲交響曲  
第4番イ長調 作品90「イタリア」

### ■李 相根／「韓国旋律による徐緩調」

叙情的でゆるやかな風の音楽という意味であり、作曲者自身の名前をつけた曲である。韓国の歌楽と長短を使用し、西洋音楽の作曲技法とオーケストラの演奏によって、一幅の韓国画を見るような高尚な情趣が感じられる曲である。楽曲の始めはバイオリンなどが暖かい春の陽炎を連想させるトレブロ演奏法で雰囲気を出し、それに重ねて、高尚な音色のバスーンが一首の時調を誦する流暢に旋律を演奏する。

続いて他の木管楽器が加わり、すべての楽器が一緒になり、楽しそうに大きく奏でる。類似した形式で反復を繰り返すが、自由な技法で部分ごとに新しい音を挿入して、決して単調さを感じられない。

そして、終わりの部分では、それぞれの楽器が次の旋律を奏でながら消え、最後に、バイオリンとピッコロが、限らない暗案のように、持続音で、余韻を残しながら全体の楽曲を終える。

### ■メンデルスゾーン／交響曲第4番イ長調 作品90「イタリア」

メンデルスゾーンは1829年(20歳)から1832年に渡り、イギリス、イタリア(ローマ、ナポリ)、スイス、フランス等を旅行した。この作品はローマでの6ヶ月の滞在中に目にした謝肉祭(カーニバル)と教皇グレゴリウス16世の就任式などで感銘を受け、作曲したものである。その中でも第1楽章と第4楽章は特にイタリアの色彩感に溢れている。この曲は古典的な形式を持ちながらも浪漫的で、抒情的に表現されている。イタリアで作曲を始め、1833年ベルリンで完成した。初演は彼がもっとも好きな都市、ロンドンでされた。この曲が再び発見されたのはメンデルスゾーンが亡くなってから9年後だった。

## 合同演奏



- ・ワーグナー作曲「ニュルンベルグのマイスタージンガー」より第1幕への前奏曲
- ・ワーグナー作曲「タンホイザー」序曲

### ■ワーグナー／楽劇「ニュルンベルグのマイスタージンガー」より第1幕への前奏曲

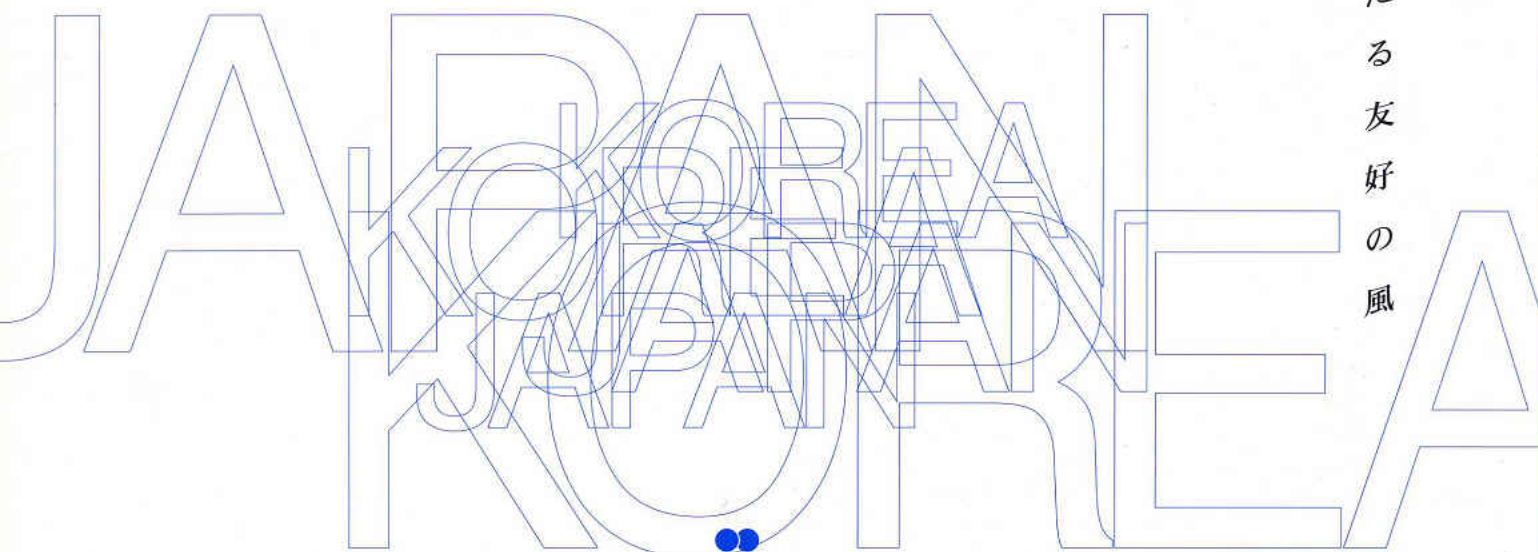
3幕のオペラ「ニュルンベルグのマイスタージンガー」は、舞台総合芸術の実現を目指したワーグナー円熟期唯一の喜劇であり、台本も中世に実在した「親方歌手」マイスタージンガーと「歌合戦」などの史実をもとに、自分で書きあげたものである。1867年の完成。

俗物性を排除した新しい芸術を推進することがこのオペラの大命題であり、ドイツ精神の高揚も誇らしく謳歌された。前奏曲にはそうした楽劇の理念が凝縮され、そこで息づく民衆の活力も人間の愛と真実とを力強く壮麗に浮かびあがらせている。

### ■ワーグナー／歌劇「タンホイザー」序曲

中世伝説をもとに、やはり作曲者自身によって台本が書かれたこのオペラは、官能的な悦楽とキリスト教的禁欲のふたつの世界を対置し、その両極のあいだで苦悩するタンホイザーの姿を通して、愛の根源的な問題を深く掘り下げた作品となった。愛の女神ヴェーヌの虜となり、破滅へ突き進むタンホイザーが、清純な恋人エリーザベットの犠牲的な愛により救済される物語。

響きわたる友好の風





## 朴 性完 (パク スンワン)

啓明大学校音楽大学器楽科卒業、啓明大学校大学院器楽科卒業、Netherlands Maastricht音楽院指揮科卒業、大邱、蔚山、浦項市立交響楽団常任指揮者歴任、Netherlands Sittard Chamber Orchestra常任指揮者歴任、釜山、馬山、浦項市立交響楽団客員指揮、St.Petersburg State Symphony Orchestra、Russian Philharmonic Orchestra客員指揮  
現在、釜山大学校音楽大学教授、浦項市立交響楽団常任指揮者

### 浦項市立交響楽団

浦項市立交響楽団は1997年3月17日に、指揮者のリー・ナクソン、リーダーのチョイ・スンシクにより設立されたプロのオーケストラです。クラシックから現代音楽まで幅広く取り上げ高い評価を得ています。



## PROFILE

◎プロフィール



### 山口哲人

上越市出身。東京芸術大学作曲科卒業。<sup>ひちりき</sup>「箏篋とオーケストラのための『片葉の葦』」(文化庁創作奨励特別賞受賞)や、「やつかはぎ」(当楽団等地元音楽家初演)と地元に関心した曲を作曲。また作曲家の傍らアマチュア・オーケストラや市民オペラ公演の指導に力を注ぐなど多方面で活躍している。上越交響楽団には1988年より常任指揮者として指導にあたり、その実力を発揮している。

### 上越交響楽団

上越交響楽団は1972年に発足。年2回の定期演奏会を行い、今年度で50回を迎えるアマチュアのオーケストラです。クラシックから現代音楽まで幅広く演奏しています。



### 浦項市紹介

人口約52万人。昨年市制50周年を迎え、上越市とは1996年4月に「国際経済・文化交流共同宣言」に調印。浦項総合製鉄(株)は粗鋼生産高世界第1位として有名。

### 日韓フレンドシップコンサート実行委員会

〒943-8601 上越市木田1-1-3 (上越市国際交流課内)  
TEL.0255-26-5446 FAX.0255-26-6113